

当医院のシステム紹介

○田口知義
田口歯科医院（長崎市）

近年、歯科界においても様々なソフトが開発され、診療室内でコンピューターを使用している歯科医師は確実に増加している。また、その応用方法は、各歯科医院により多種多様と思われる。

当医院においても時代に即した診療体制のあり方を痛感し、コンピューターとそれに対応する付属品を設置して5年をかけて当医院のオリジナルシステムを確立してきたので、ここにいくつか紹介する。

まず、以前はスライドで行っていた画像管理を口腔内カメラとコンピューターを接続してフロッピーに保存するようにした。スライドよりも保存がコンパクトにでき、またデータの呼び出しが容易にできるようになったため、初診時に患児の口腔内について母親に画面上で話ができたり、他症例を写してみせてより具体的に治療内容を説明することができるようになった。

矯正診断用ソフトでは、患者の顔面及び口腔内写真の管理や、セファロトレースに附随して様々な分析をおこなっている。この分析により患者の成長を予測することが可能になった。

以上の分析や資料作製は、院内だけでやり終えるのは難しいため自宅や外出先でも仕事ができるようにネットワークの構築を行っている。このネットワークは公衆衛生活動で行政とディスカッションする際、必要な資料を呼び出すのに大変役立っている。

その他、当医院のホームページを開いたりEメールで歯科相談を受けたりしている。今回は、これらシステムの説明と患者指導用ソフトと矯正診断用ソフトのデモを行う。

小児歯科におけるデジタル診断情報

○春岡龍男
長崎市開業

コンピューターの高速化は処理に多大な負担のかかるデジタル画像の扱いを容易にし、臨床においてビジュアルなイメージによるコミュニケーションに依存することの多い歯科では、その可能性を広げることになった。

演者はデジタル環境の特性を把握した上で日常臨床にフィードバックできるシステムを目指してきた。特に、画像記録をこれまでの銀塩写真による方法からデジタル画像を用いた方法へと切り替えることにより、その特性を引き出すことに努めて来た。

医療画像情報は、銀塩写真でこれまで構築されて来た高度な表現力に支えられているがゆえ、そのデジタル化に於いて、当初は臨床的に限界の低いものと感じられ活用の道に制限があった。しかし、テクノロジーの進歩とデジタル化によるメリットを引き出すことで、効率の良い歯科医療への足がかりを得られるようになって来た。

これにより、これまで困難であった遠距離でのコミュニケーションもレスポンスの優れたデジタルネットワーク環境を構築することが可能になり、また、今までは静的な画像や、規格化された一定の方向からしか認識することのできなかったイメージ情報伝達手段が、デジタルシステムによって新たな概念の方法で行なえる可能性も生じてきた。CTの画像などももっと積極的に活用されるべきであろう。演者が取り組んでいる新しいイメージ伝達の方法も紹介する。

デジタル環境では、歯科医療にかかわるスタッフや患者を含め、情報を共有する事による新たな医療のコンセンサスづくりが行なえる可能性が見えて来た。

それゆえ、よりどころとなる画像情報の質の基準というものに対しては十分にコントロールされたものが必要となるであろう。現在デジタル画像情報が臨床的にどの程度の表現力を持つ事ができるかも示したい。デジタルカメラによる口腔内撮影のデモンストレーションも行なう。